

伊賀・山城南定住自立圏共生ビジョン懇談会委員からの意見

【①伊賀・山城南地域の将来像について】

●圏域の特徴、伊賀市・笠置町・南山城村との連携を図っていく上で重要な要素（木津川、国道 163 号等）を踏まえた「キーワード」とする。

- i 日本のだ真ん中、関西圏と中部圏の橋渡しの圏域
- ii 人口重心、地理的・行政的・文化的に日本の真ん中の圏域
- iii 淀川の源流地域、日本の中心、移り住んでよかったと思える圏域
- iv “移り住みたい”、“行ってみたい” と思える圏域
- v 木津川上流、水のつながり

●キーワード：『だれもが住み慣れた地域で安心して暮らしつづける』

…地域で安心して暮らしつづけるためには「生活機能」「結びつきやネットワーク」「圏域マネジメント能力」のそれぞれの強化が必須になると考えるため。

●豊かな自然を活かしたまちづくり

●若者が魅力を感じるまちづくり

●R 1 6 3、関西本線、木津川、藤堂藩

●相互理解・相互交流・相互扶助

それぞれが、地域特性等を理解しあい、交流を深め、ストロングポイントを享受し、ウィークポイントは補完しあうことが大切である。

●意識の共有化

●共同生活圏としての環境整備

- i 救急医療体制と防災体制の相互応援体制の構築
- ii 圏域内での就業、通学、ショッピング、通院を考慮した公共交通網の整備
- iii 圏域内の産業、就労、ショッピングを考慮した幹線道路、生活道路の整備
- iv 圏域内の就労者の就労形態に応じた子育て支援、高齢者福祉事業の相互利用の促進

●圏域内の産業の集積と就労者の圏域内での確保

- 観光資源の発掘と相互協力による情報発信
- 南山城村また笠置町の方が、伊賀市で勤務されてる方は買物すればポイントがもらえる。
- 医療（病院）伊賀市内の⇒2町村住民が伊賀市の住民も含めて山城病院のように地元扱いにする。
- 人口減少や高齢化等の今ある課題に加え、I C TやA I の活用等社会の変化に伴い、様々な新しい課題が生まれても、伊賀・山城南地域が連携・協力して課題解決に取り組み、住民・企業・行政・訪問者等が、そろって「わくわく感」をもてるような地域になることを目指したいと思います。
- 府県境をまたいで、このエリアの人口流出を防ぎ、住民の暮らしを維持することである。

【②具体的にに取り組む事業について】

◆生活機能の強化

1. 医療の政策へのご意見

●伊賀市では「伊賀市救急ダイヤル 24」がある。対象者は伊賀市在住の方に限定しているが、笠置町・南山城村のそれぞれでも活用できないのか？また、現在南山城村では、救急車で緊急搬送された際に伊賀市のほうが近いにもかかわらず、精華町や京田辺市に搬送される。搬送先として市民病院や岡波病院も視野に入れることはできないか？ （1）

●医療

安心安全な生活をするための一番大切なインフラであると思う。 （2）

2. 健康・福祉の政策へのご意見

●自分が住んでいる南山城村と比較すると、伊賀市は福祉が充実しており、地域福祉活動も活発で、福祉サービスの事業所も施設も多い。一方で、南山城村は社会福祉協議会のみが福祉サービスを提供している。しかし、高齢になって一人暮らしであっても、介護サービスを利用せず、隣近所で支えながら住み慣れた家で過ごす人も多くいる状況である。お互いの良さを生かしながら、福祉を充実していけたら理想である。

●未婚晩婚化の解決への取り組みの推進

伊賀市内各地で婚活パーティーが行われているが、笠置町でも街コンが行われているので各圏域の特色を生かした婚活プログラムの実施ができないか？ （6）

●圏域内の就労者の就労形態に応じた子育て支援、高齢者福祉事業の相互利用の促進

圏域内の就労者の就労形態に応じ、子育て支援施設や保育所の募集については、圏域内全体で行う。 （3～16）

3. 教育の政策へのご意見

●生涯学習の推進（学びの充実と広がり）

・指導者交流や人材育成、情報交換 （25）

●文化やスポーツの連携 （22～24）

・公共施設の相互利用（利便性の向上）

- ・イベント等の共同開催（コミュニケーションの促進）
- ・文化財の有効活用

●図書館サービス体制の連携

- ・利便性の向上（読書の推進）（２７）

4. 産業振興の政策へのご意見

●広域観光の推進

歴史・文化・観光面の繋がり・連携を図ることにより、圏域の魅力を発信して、圏域外の人が「行ってみたい」、「住んでみたい」と思える取組を推進

- （i）圏域内の観光PRや案内機能、物産販売の強化に向けて取組（各市町村の施設、新しい道の駅の活用）（４９～５０）
- （ii）圏域内の広域ルートの構築に向けた取組（東大寺お水取り、東海自然歩道、大和街道）
- （iii）伊賀市・笠置町・南山城村の文化・観光施設の交流を強化するためのイベント（木津川をテーマとしたコンサート（持ち回り）、南山城村やまなみホールと伊賀市文化会館とのコラボ）
- （iv）自然資源（例えば「桜」、「紅葉」）の活用したイベントの連携（全国お花見1000景の笠置町自然公園と上野公園との連携・発信、「桜まつり」や「紅葉まつり」でのコラボ）
- （v）圏域外の人が「行ってみたい」「行って良かった」と思えるように、圏域へのアクセス拠点（主要な駅・停留所）の魅力向上のための整備（コンビニ、カフェ、観光施設）及びアクセス方法のPRの検討

●圏域内の産業の集積と就労者の圏域内での確保

圏域内においては、一定の規模による産業の集積を図り、就労者の募集については、圏域内全体で行う。（２８～２９）

●観光資源の発掘と相互協力による情報発信

現に明らかな観光資源については、圏域内外に全体とした広報を行う。（３０）

圏域内には奈良時代の「和銅の道」、中世から近世への「大和街道」があり、特に中世においては、木津川による水路運行も活発であったことから、これらの観光資源の掘り起こしと整備を行なう。

●R163、JR関西線の魅力アップ、個性化

●観光

グリーンツーリズム、忍者ツーリズム、アグリツーリズムなど。

互いのストロングポイントを活かせば、スローライフを求める日本人はもちろんのこと、海外誘客も可能性がある。

●木津川とＪＲにてつながっているので、まず、さくらの時期にＪＲと各地との取り組みで、特別列車（限定列車）を走らせ、各地でイベントをやり、観光客を集めて、毎年の事業とする。（木津川の舟下りをしたいと思っているが、川底が浅いので、連携での試みに少しむずかしいと思うが、行いたい。）

●観光ルートの具現化

6. 防災の政策へのご意見

●広域連携による防災力強化

大規模災害に備えて広域的な避難体制の整備への取り組みの推進

（i）伊賀市、笠置町と南山城村による図上訓練の実施 （４０～４１）

●相互応援体制の確立

圏域における防災力の向上を図り、相互応援体制を強化、情報共有する施策を推進

（i）伊賀市、笠置町と南山城村による合同防災訓練の実施 （４０～４１）

（ii）伊賀市、笠置町と南山城村の消防団訓練の相互参加、意見交換 （４２）

●救急医療体制と防災体制の相互応援体制の構築

防災体制については、雨量測定等、ＩＣＴ情報の圏域内全体としての共有と、災害時の相互応援体制の確立 （４０～４１）

◆結びつきやネットワークの強化

1. 公共交通の政策へのご意見

●地域公共交通対策

圏域住民の移動手段の確保や利便性の向上を図るため、圏域の特性や実情に応じた地域交通網の構築

- (i) 伊賀市、笠置町と南山城村との間での交通事情（JR 関西本線、国道 163 号線）を踏まえて、コミュニティバスの連絡、接続に向けた運行ルートの検討、検証等
- (ii) 買い物バス、病院バスの運行の検討

●圏域内での就業、通学、ショッピング、通院を考慮した公共交通網の整備

J R、伊賀鉄道、路線バス及びコミュニティバスの連絡体制を見直し、就労、通学、ショッピング、通院に適した配置の構築 （4 5）

3. 交通インフラ整備の政策へのご意見

●圏域内の産業、就労、ショッピングを考慮した幹線道路、生活道路の整備

圏域相互交流に適した幹線道路、生活道路の整備と、各地域からの名阪国道へのアクセスの改善

5. 地域内外の住民との交流の政策へのご意見

●移住・交流施策の推進

関西圏と中部圏に接した圏域、日本のど真ん中の圏域の魅力を最大限活用して、移住・交流施策の推進 （5 1）

- (i) 伊賀市、笠置町と南山城村による合同による圏域の魅力の発信（HP 開設）
- (ii) 中部圏には馴染みのない笠置町と南山城村の魅力を伊賀市の HP で紹介（笠置町・南山城村の HP で伊賀市の魅力を発信） （4 6～4 7）

●公共施設の相互利用

行政区域を越えた公共施設の相互利用

- (i) 温泉施設（伊賀市のサンピア伊賀・大山田さるびの、笠置いこいの館）、文化施設の共通パスポート （5 5）

◆圏域マネジメント能力の強化

1. 人材育成・交流の政策へのご意見

●職員研修の合同実施及び圏域内人事交流

各市町村の職員だけでなく、社会福祉協議会も職員間の研修が出来ないか？また伊賀市は笠置町、南山城村に比べて、地域福祉活動が活発であるので、お互いの地域の状況は異なっているとしても、活かせる部分が多いのではないかと。

◆分野を跨ぐご意見

●3地域それぞれの得意分野を洗い出し、共有（拠点づくり）をする。

●人材育成

これからの担い手（若者）を、いかに残ってもらえるか、住み続けてもらえるための教育、施策等の仕掛けを協力してもっていく。

●救急医療体制の推進や健康づくり事業の充実、広域観光事業（イベント相互参加、広告）、不法投棄防止対策等で、できる施策から取り組み、実績をつくっていくことが大切。

●共通課題である鳥獣被害防止対策や移住・交流施策の推進（婚活イベントの合同開催や3地域の移住宣伝DVD作成・・・）等に1年目として取り組めれば、本構想への住民の期待や関心を高められるのではないのでしょうか。

●特産品－文化の交流の場の設置

●観光振興策として連携し、誘客し、広域化を図る。また救急輸送等の地域医療の充実を図る。

【③その他のご意見】

- 三重県で最初の府県を越えた圏域、京都で初めての定住自立圏構想であることの意義等について言及すること
- 定住自立圏の形成協定書には記載されていないものの、来年３月にオープン予定の南山城村の「道の駅」を踏まえ、圏域内の地産地消の取組（特産品等の PR、販路拡大の推進）についても推進すること
- 取組事業を実施するにあたり、クラウドファンディングを活用すること
- 普段仕事をしている中でも、お互いの地域の良さを活かす機会の必要性を感じていたので、共生ビジョンをきっかけに、どの地域によっても「WIN WIN」の関係性を築ければいいと思う。
- 社会福祉協議会として、当会が実施する各種講座（例：いが見守り支援員養成講座基礎講座、災害ボランティアコーディネーター養成講座、地域介護サポーター養成講座、生活支援員養成講座など）の参加を案内し、ノウハウを提供することも可能である。
- 年度別（長期・短期）に分野別の共生ビジョンを掲げて、その進捗度に応じて、見なおし（補正）を・・・。
- 医療に関しては、医療圏の構築を目指したい。その為には、人口約２０万人の圏域をつくらねばならない。山添や名張にもこの定住自立圏に参加してもらえれば、２０万人の圏域は容易。その為にも今回の定住自立圏を実効性のあるものにし、未参加地域がうらやましく思い、参加を誘うことになることが、大変望ましい。
- 交通機関の連携整備については、伊賀市における地域公共交通活性化再生事業があり、これとの連携が必要である。
- 圏域内における空き家対策については、伊賀市及び南山城村において、それぞれ空き家バンクを開設していることから、両者における連携とすみ分けが必要である。
- 行政の連携にて、当町のふるさと納税は、まだ進んでいないため、伊賀牛をお礼品として、当町のパンフレットに入れて、具体化する。

●笠置町と南山城村は、和束町と共に2町1村で「相楽東部広域連合教育委員会（和束町中）」を設置しており、教育分野に関することは、その所管となっているため、笠置町と南山城村だけでの判断や実施はむずかしいと思う。

●伊賀上野－笠置間（加茂）にS Lを運行させる。

●3市町村の行政が、たえず情報交換、交流を行うこと。